

令和 3 年 6 月 1 8 日
富里市立富里北中学校長

保護者 様

令和 3 年度の評価・評定について

紫陽花の候、日頃より本校の教育活動へのご理解・ご協力に感謝申し上げます。
さて、令和 3 年度より新学習指導要領実施となり、今までの評価観点が変更となりました。評価・評定について、下記の通り実施いたします。

記

評価・評定について

基本的には学習指導要領の 3 つの柱である「個別の知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」に対応した形で評価します。

学習状況評価の 3 観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」であり、学習指導要領と対応した形となります。

知識・技能

「知識・技能」の観点では、各教科で身につけるべきとされている知識やスキルについて、十分に習得しているかが評価の対象となります。

ただし、1 問 1 答形式で測るような単純な知識だけではなく、他の教科の知識とも結びつけて活用できるような概念的な知識も重視されます。そのためペーパーテストにおいても、単なる知識を問う問題に加えて、深い理解を試す文章題を使うなど、応用的な部分も含まれることになります。また、教科によっては実験などによる評価を行うなど、教科特性に合わせた適切な評価も重視されることとなります。

思考力・表現力・判断力

「思考力・表現力・判断力」の観点では、「知識・技能」に比べてより広い力を評価することになります。

各教科教育の中で課題や問題に向き合って解決していく能力や、級友と協力しながら問題解決の糸口を見つけていく力など幅広い能力が評価対象になります。自らの思いを表現していく能力も評価されます。

そのため、具体的な評価方法はペーパーテストに限られないことになります。グループでのディスカッションや発表、レポートなど、各教科の特性に合わせて評価方法が工夫されます。

主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」はこれまでの「関心・意欲・態度」の評価観点に対応するものですが、評価軸はこれまでとは多少違ったものとなります。

これまでのノートの取り方や挙手の回数など、児童・生徒の性格による部分や形式的なものによって判断するものではありません。

「主体的に学習に取り組む態度」においては、さらに深い部分を見ていくことになります。各教科の内容を理解するために、生徒が「いかに学習を調整して、知識を習得するために試行錯誤し、修正を加えながら粘り強く学習に取り組んでいるか」という部分を評していきます。

ノートやレポート等に終える記述、授業中の発言、教師による行動観察、生徒の自己評価や相互評価等の状況などが参考材料となります。

通知表の見方について

それぞれの観点の目標に照らし、その達成目標を次のように表します。

「A」 十分達成している。 「B」 おおむね達成している。 「C」 努力を要する。

授業、テストや実技など様々な場面で観点別評価を積み重ねながら、それぞれの観点を決定します。

① 「教科の評定」は、教科の総合的な学力を次のように表したものです。

「5」 特に優れている。 (観点は AAA)

「4」 十分満足できる。 (観点は AAB)

「3」 おおむね満足できる。 (観点は ABB AAC BBB ABC BBC)

「2」 努力が必要である。 (観点は BCC)

「1」 特に努力が必要である。(観点は CCC)

② 生活・行動の状況

それぞれの項目、観点ごとに、次のように表したものです。

「○」 十分達成している。 「空欄」 おおむね達成している。 「△」 努力を要する。